

半 期 報 告 書

(第114期中) 自 平成26年 4 月 1 日
至 平成26年 9 月 30 日

太平化学製品株式会社

(E00844)

第114期中（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

半 期 報 告 書

- 本書は半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した半期報告書に添付された中間監査報告書を末尾に綴じ込んでおります。

太平化学製品株式会社

目 次

	頁
第114期中 半期報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	4
3 【関係会社の状況】	4
4 【従業員の状況】	4
第2 【事業の状況】	5
1 【業績等の概要】	5
2 【生産、受注及び販売の状況】	6
3 【対処すべき課題】	7
4 【事業等のリスク】	7
5 【経営上の重要な契約等】	7
6 【研究開発活動】	7
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	7
第3 【設備の状況】	9
1 【主要な設備の状況】	9
2 【設備の新設、除却等の計画】	9
第4 【提出会社の状況】	10
1 【株式等の状況】	10
2 【株価の推移】	12
3 【役員の状況】	12
第5 【経理の状況】	13
1 【中間連結財務諸表等】	14
2 【中間財務諸表等】	33
第6 【提出会社の参考情報】	42
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	43
中間監査報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年12月24日

【中間会計期間】 第114期中(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 太平化学製品株式会社

【英訳名】 TAIHEI CHEMICALS LIMITED.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 門田 豊

【本店の所在の場所】 埼玉県川口市領家四丁目5番19号

【電話番号】 (048)222局1122番(代表)

【事務連絡者氏名】 経営管理部長 坂田 昌繁

【最寄りの連絡場所】 埼玉県川口市領家四丁目5番19号

【電話番号】 (048)222局1122番(代表)

【事務連絡者氏名】 経営管理部長 坂田 昌繁

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第112期中	第113期中	第114期中	第112期	第113期
会計期間	自 平成24年 4月1日 至 平成24年 9月30日	自 平成25年 4月1日 至 平成25年 9月30日	自 平成26年 4月1日 至 平成26年 9月30日	自 平成24年 4月1日 至 平成25年 3月31日	自 平成25年 4月1日 至 平成26年 3月31日
売上高 (千円)	2,621,257	2,431,429	2,649,246	5,152,559	5,089,452
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△174,440	△82,260	39,417	△234,988	△117,997
中間純利益又は 中間(当期)純損失(△) (千円)	△190,533	△61,289	22,972	△220,562	△100,743
中間包括利益又は 包括利益 (千円)	△143,749	△44,993	41,099	△216,055	△106,091
純資産額 (千円)	3,138,117	2,990,027	2,969,985	3,065,792	2,928,928
総資産額 (千円)	8,761,616	8,377,458	8,438,134	8,663,115	8,285,905
1株当たり純資産額 (円)	255.28	243.26	241.64	249.41	238.29
1株当たり中間純利益 金額又は中間(当期) 純損失金額(△) (円)	△15.50	△4.99	1.87	△17.94	△8.20
潜在株式調整後 1株当たり中間(当期) 純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	35.8	35.7	35.2	35.4	35.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	198,608	223,285	209,570	293,100	141,286
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△24,899	△99,842	△79,847	△94,444	△134,922
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	534,331	△185,772	△55,652	479,116	△241,038
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (千円)	1,270,236	1,230,031	1,158,946	1,281,175	1,069,701
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数) (名)	217 (—)	198 (—)	168 (25)	206 (—)	195 (—)

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 第112期中から第113期の潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、1株当たり中間(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

第114期中の潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

4 第114期中の平均臨時雇用者数は、従業員数の100分の10を超えたため、各会計期間の平均人員を()外数で記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第112期中	第113期中	第114期中	第112期	第113期
会計期間	自 平成24年 4月1日 至 平成24年 9月30日	自 平成25年 4月1日 至 平成25年 9月30日	自 平成26年 4月1日 至 平成26年 9月30日	自 平成24年 4月1日 至 平成25年 3月31日	自 平成25年 4月1日 至 平成26年 3月31日
売上高 (千円)	2,617,078	2,426,314	2,645,654	5,145,459	5,081,134
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△176,632	△75,923	36,894	△236,187	△114,104
中間純利益又は 中間(当期)純損失 (△) (千円)	△191,869	△57,318	21,376	△221,356	△98,975
資本金 (千円)	1,222,600	1,222,600	1,222,600	1,222,600	1,222,600
発行済株式総数 (株)	12,300,000	12,300,000	12,300,000	12,300,000	12,300,000
純資産額 (千円)	3,126,127	2,982,550	2,958,710	3,054,344	2,919,249
総資産額 (千円)	8,725,867	8,349,640	8,405,351	8,632,151	8,254,346
1株当たり配当額 (円)	—	—	—	2.50	—
自己資本比率 (%)	35.8	35.7	35.2	35.4	35.4
従業員数 (名)	142	137	148	142	135

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員数を表示しております。

3 中間連結財務諸表を作成しており、中間財務諸表に1株当たり純資産額、1株当たり中間純利益金額又は中間(当期)純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額を注記していないため、1株当たり純資産額、1株当たり中間純利益金額又は中間(当期)純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額の記載を省略しております。

2 【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当中間連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
合成樹脂事業	95 (13)
化成品事業	44 (12)
全社(共通)	29
合計	168 (25)

- (注) 1 従業員数は、就業人員数であります。
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当中間連結会計期間の平均雇用人員であります。
3 臨時従業員には、パート及び有期雇用契約者を含み、派遣社員を除いております。

(2) 提出会社の状況

平成26年9月30日現在

従業員数(名)	148
---------	-----

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
2 臨時従業員数は、従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

当社には、太平化学製品労働組合と太平化学製品株式会社本社労働組合の二組合がありますが、(有)太平化成には労働組合はありません。

なお労使関係については、特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）におけるわが国経済は、政府の景気対策により緩やかな回復基調となったものの、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動や物価上昇に伴う実質所得の低下の影響などから個人消費は弱い動きとなっており、住宅投資も駆け込み需要の反動から大幅に減少し、依然として景気の見通しが不透明な状況で推移しました。

このような状況下、当社グループは、企業の設備投資の回復や海外案件を獲得できたこと等により、売上高は、2,649百万円、対前年同期比217百万円（同9.0%）の増収となりました。

一方、利益面につきましては、売上高の増収効果や経費削減及び製造原価低減の一層の推進に努めたことに加え、期末に向けて急激な円安になった結果、営業利益は19百万円、対前年同期比146百万円、経常利益は39百万円、対前年同期比121百万円、中間純利益は22百万円、対前年同期比84百万円の増益となり、上期黒字化を達成しました。

当中間連結会計期間のセグメント別概況は次のとおりであります。

(合成樹脂事業)

合成樹脂事業は、冷却塔用充填剤及び照明器具用部材に加え海外カード案件の拡販に努めてまいりました結果、売上高は、1,681百万円、対前年同期比220百万円（同15.1%）の増収となり、この影響を受けてセグメント利益は57百万円、対前年同期比106百万円の増益となりました。

(化成品事業)

化成品事業は、安価な海外品の流入の影響により粘接着剤塗工製品は減少したため売上高は、968百万円、対前年同期比2百万円（同0.3%）の減収となりましたが、顔料分散体の高付加価値品が増加したためセグメント利益は、192百万円、対前年同期比54百万円（同40.0%）の増益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動の結果得られた資金が、投資活動及び財務活動に使用した資金を上回ったことにより、前連結会計年度末に比べ89百万円増加し1,158百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、209百万円となりました。これは主に仕入債務の増加156百万円及び減価償却費76百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、79百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得79百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、55百万円となりました。これは主に長期借入金の返済54百万円によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
合成樹脂事業	1,735,610	19.0
化成品事業	932,963	△6.5
合計	2,668,574	8.6

- (注) 1 上記の金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当中間連結会計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
合成樹脂事業	112,108	9.9
化成品事業	91,698	6.6
合計	203,807	8.4

- (注) 1 上記の金額は、実際仕入額によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

当社グループは、主として需要予測に基づく見込生産を行っているため、該当事項はありません。

(4) 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
合成樹脂事業	1,681,236	15.1
化成品事業	968,010	△0.3
合計	2,649,246	9.0

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

4 【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当中間連結会計期間におきましては、当社を取り巻く市場環境は依然として厳しい状況が続いているものの、新規案件の獲得やコスト削減策が功を奏していることから、売上高は2,649百万円（前年同期2,431百万円）となりました。売上総利益は、製造原価の低減に努めました結果、384百万円（前年同期244百万円）、販売費及び一般管理費についても費用の削減を鋭意進めた結果365百万円（前年同期371百万円）、営業損益は19百万円の営業利益（前年同期営業損失127百万円）、経常損益は、39百万円の経常利益（前年同期経常損失82百万円）となり、中間純利益は22百万円（前年同期中間純損失61百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて161百万円増加し、4,272百万円となりました。これは主に、現金及び預金が89百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて9百万円減少し、4,165百万円となりました。これは主に、減価償却に伴い有形固定資産が24百万円減少し、投資有価証券が18百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて152百万円増加し、8,438百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて135百万円増加し、4,597百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が156百万円増加したことなどによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて24百万円減少し、870百万円となりました。これは主に、退職給付に係る負債が24百万円増加し、長期借入金が54百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて111百万円増加し、5,468百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて41百万円増加し、2,969百万円となりました。これは主に、利益剰余金22百万円の増加によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、主に、仕入債務の増加、減価償却費により209百万円の収入（前年同期223百万円の収入）となり、投資活動によるキャッシュ・フローは、主に、有形固定資産の取得により79百万円の支出（前年同期99百万円の支出）となりました。

その結果、営業活動によるキャッシュ・フローに投資活動によるキャッシュ・フローを加算したフリー・キャッシュ・フローは129百万円の収入（前年同期123百万円の収入）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に長期借入金の返済により55百万円の支出（前年同期185百万円の支出）となりました。

第3 【設備の状況】

1 【主要な設備の状況】

当中間連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2 【設備の新設、除却等の計画】

前連結会計年度末において、計画中又は実施中の重要な設備の新設、除却等はありません。また、当中間連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

② 【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年12月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,300,000	12,300,000	非上場、非登録	単元株式数は 1,000株であります。
計	12,300,000	12,300,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年4月1日～ 平成26年9月30日	—	12,300,000	—	1,222,600	—	958,677

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
東ソー株式会社	東京都港区芝三丁目8番2号	8,931	72.61
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	290	2.36
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	東京都渋谷区恵比寿一丁目28番1号	200	1.63
中 神 瑞 夫	埼玉県八潮市	161	1.31
高 梨 嘉 嗣	千葉県浦安市	150	1.22
東ソー・ニッケミ株式会社	東京都港区芝二丁目5番10号	143	1.16
中 村 和 幸	埼玉県川口市	129	1.05
木 下 道 雄	大阪府豊中市	115	0.93
押 切 豊 彦	東京都立川市	82	0.67
プラス・テク株式会社	茨城県稲敷郡阿見町大字香澄の里1-1	80	0.65
計	—	10,281	83.59

(注) 上記のほか、証券保管振替機構名義の株式が153千株あります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 9,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,242,000	12,242	—
単元未満株式	普通株式 49,000	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	12,300,000	—	—
総株主の議決権	—	12,242	—

(注) 1 上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が153,000株(議決権153個)含まれております。

2 「単元未満株式」には当社保有の自己株式62株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 太平化学製品株式会社	埼玉県川口市領家四丁目 5番19号	9,000	—	9,000	0.07
計	—	9,000	—	9,000	0.07

2 【株価の推移】

【当該中間会計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成26年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	—	—	—	—	—	—
最低(円)	—	—	—	—	—	—

(注) 最高・最低株価は、日本証券業協会発表の「グリーンシート銘柄」の株価であります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5 【経理の状況】

1 中間連結財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

(1) 当社の中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成11年大蔵省令第24号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の中間連結財務諸表及び中間会計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の中間財務諸表について、東邦監査法人の中間監査を受けております。

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

① 【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,069,701	1,158,946
受取手形及び売掛金	1,732,052	1,756,648
商品及び製品	645,955	723,659
仕掛品	218,000	238,008
原材料及び貯蔵品	310,201	278,188
繰延税金資産	69,556	55,843
その他	65,349	60,946
流動資産合計	4,110,817	4,272,243
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	288,487	286,940
機械装置及び運搬具（純額）	426,384	439,441
土地	2,759,654	2,759,654
リース資産（純額）	5,200	4,169
建設仮勘定	55,312	20,747
その他（純額）	6,718	6,287
有形固定資産合計	※1 3,541,758	※1 3,517,241
無形固定資産		
ソフトウェア	1,778	1,420
電話加入権	2,527	2,527
無形固定資産合計	4,306	3,948
投資その他の資産		
投資有価証券	166,417	184,545
関係会社株式	30,642	30,642
繰延税金資産	423,352	423,352
その他	8,610	6,162
投資その他の資産合計	629,023	644,702
固定資産合計	4,175,087	4,165,891
資産合計	8,285,905	8,438,134

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,019,971	1,176,519
短期借入金	3,000,000	3,000,000
1年内返済予定の長期借入金	108,000	108,000
リース債務	2,166	2,161
未払金	137,397	119,632
未払法人税等	7,763	6,265
未払消費税等	2,708	30,294
未払費用	36,153	40,593
賞与引当金	92,036	87,135
設備関係支払手形	49,580	20,118
その他	6,000	6,485
流動負債合計	4,461,778	4,597,209
固定負債		
長期借入金	106,000	52,000
リース債務	3,301	2,220
役員退職慰労引当金	23,375	27,493
退職給付に係る負債	691,826	716,668
長期預り保証金	51,357	53,219
その他	19,338	19,338
固定負債合計	895,197	870,940
負債合計	5,356,976	5,468,149
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,222,600	1,222,600
資本剰余金	958,677	958,677
利益剰余金	795,843	818,815
自己株式	△833	△876
株主資本合計	2,976,287	2,999,216
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△47,358	△29,230
その他の包括利益累計額合計	△47,358	△29,230
少数株主持分	-	-
純資産合計	2,928,928	2,969,985
負債純資産合計	8,285,905	8,438,134

② 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)
売上高	2,431,429	2,649,246
売上原価	2,187,027	2,264,350
売上総利益	244,402	384,896
販売費及び一般管理費		
運送費	63,324	66,851
広告宣伝費	1,275	492
給料及び手当	120,683	126,331
賞与引当金繰入額	20,105	20,342
退職給付費用	10,556	8,621
役員退職慰勞引当金繰入額	4,262	4,198
法定福利費	23,319	24,399
旅費及び交通費	16,248	15,873
事務費	20,438	17,674
研究開発費	22,840	21,828
減価償却費	9,911	11,527
その他	58,529	47,669
販売費及び一般管理費合計	371,496	365,811
営業利益又は営業損失(△)	△127,094	19,084
営業外収益		
受取利息	199	48
受取配当金	2,621	2,621
試作品売却益	10,239	10,122
スクラップ売却益	3,628	2,934
為替差益	11,193	15,175
受取補償金	36,800	-
その他	4,023	8,866
営業外収益合計	68,704	39,768
営業外費用		
支払利息	21,548	18,165
その他	2,321	1,270
営業外費用合計	23,870	19,435
経常利益又は経常損失(△)	△82,260	39,417
特別損失		
固定資産除却損	9,363	677
特別損失合計	9,363	677
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△91,624	38,740
法人税、住民税及び事業税	※1 △30,335	※1 15,767
法人税等合計	△30,335	15,767
少数株主損益調整前中間純利益又は少数株主損益調整前中間純損失(△)	△61,289	22,972
中間純利益又は中間純損失(△)	△61,289	22,972

【中間連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月 30日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月 30日)
少数株主損益調整前中間純利益又は少数株主損益調整前中間純損失(△)	△61,289	22,972
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16,296	18,127
その他の包括利益合計	16,296	18,127
中間包括利益	△44,993	41,099
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△44,993	41,099
少数株主に係る中間包括利益	-	-

③ 【中間連結株主資本等変動計算書】

前中間連結会計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,222,600	958,677	927,318	△792	3,107,803
当中間期変動額					
剰余金の配当			△30,731		△30,731
中間純損失(△)			△61,289		△61,289
自己株式の取得				△41	△41
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)					
当中間期変動額合計	—	—	△92,020	△41	△92,061
当中間期末残高	1,222,600	958,677	835,297	△833	3,015,741

	その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	△42,010	△42,010	—	3,065,792
当中間期変動額				
剰余金の配当				△30,731
中間純損失(△)				△61,289
自己株式の取得				△41
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)	16,296	16,296		16,296
当中間期変動額合計	16,296	16,296	—	△75,765
当中間期末残高	△25,714	△25,714	—	2,990,027

当中間連結会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,222,600	958,677	795,843	△833	2,976,287
当中間期変動額					
剰余金の配当			—		—
中間純利益			22,972		22,972
自己株式の取得				△43	△43
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)					
当中間期変動額合計	—	—	22,972	△43	22,928
当中間期末残高	1,222,600	958,677	818,815	△876	2,999,216

	その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	△47,358	△47,358	—	2,928,928
当中間期変動額				
剰余金の配当				—
中間純利益				22,972
自己株式の取得				△43
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)	18,127	18,127		18,127
当中間期変動額合計	18,127	18,127	—	41,056
当中間期末残高	△29,230	△29,230	—	2,969,985

④ 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△91,624	38,740
減価償却費	74,782	76,019
退職給付引当金の増減額(△は減少)	35,737	-
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	-	24,842
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△6,907	4,118
賞与引当金の増減額(△は減少)	△10,219	△4,901
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△190	-
受取利息及び受取配当金	△2,820	△2,669
支払利息	21,548	18,165
為替差損益(△は益)	△11,186	△15,175
有形固定資産除却損	9,363	677
売上債権の増減額(△は増加)	339,000	△24,596
たな卸資産の増減額(△は増加)	△45,563	△65,700
仕入債務の増減額(△は減少)	10,221	156,548
未払消費税等の増減額(△は減少)	△30,132	27,586
その他	△42,177	△4,068
小計	249,833	229,586
利息及び配当金の受取額	2,820	2,669
利息の支払額	△25,446	△18,598
法人税等の支払額	△4,331	△4,521
法人税等の還付額	409	434
営業活動によるキャッシュ・フロー	223,285	209,570
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△60,203	△79,649
有形固定資産の除却による支出	△7,597	-
無形固定資産の取得による支出	△1,400	-
関係会社出資金の払込による支出	△30,642	-
長期前払費用の取得による支出	-	△124
その他	-	△73
投資活動によるキャッシュ・フロー	△99,842	△79,847
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△100,000	-
長期借入金の返済による支出	△54,000	△54,000
リース債務の返済による支出	△1,110	△1,085
自己株式の取得による支出	△41	△43
配当金の支払額	△30,620	△523
財務活動によるキャッシュ・フロー	△185,772	△55,652
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,186	15,175
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△51,143	89,245
現金及び現金同等物の期首残高	1,281,175	1,069,701
現金及び現金同等物の中間期末残高	※1 1,230,031	※1 1,158,946

【注記事項】

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 1社

名称 (有)太平化成

(2) 非連結子会社

名称 泰賀(上海)貿易有限公司 1社

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社の総資産、売上高、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも中間連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社又は関連会社

該当する会社はありません。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社又は関連会社

名称 泰賀(上海)貿易有限公司

持分法を適用しない理由

持分法を適用してしない会社は、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は、中間連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

② たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

a 商品及び製品

月別総平均法

b 仕掛品

月別総平均法

c 原材料及び貯蔵品

月別総平均法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

本社及び川口工場については定率法を、草加工場については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～41年

機械装置及び運搬具 3～10年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

なお、当中間連結会計期間末においては、貸倒実績及び貸倒懸念債権等の回収不能見込額がないため、貸倒引当金は計上しておりません。

② 賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他中間連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(中間連結貸借対照表関係)

※1 資産の金額から直接控除している減価償却累計額の額

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	5,364,627千円	5,384,720千円

(中間連結損益計算書関係)

※1 中間連結会計期間における税金費用については、簡便法による税効果会計を適用しているため、法人税等調整額は「法人税、住民税及び事業税」に含めて表示しております。

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

前中間連結会計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式(株)	12,300,000	—	—	12,300,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式(株)	7,592	750	—	8,342

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 750株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月22日 取締役会	普通株式	30,731	2.5	平成25年3月31日	平成25年6月28日

当中間連結会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式(株)	12,300,000	—	—	12,300,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式(株)	8,342	720	—	9,062

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 720株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	1,230,031千円	1,158,946千円
現金及び現金同等物の 中間期末残高	1,230,031千円	1,158,946千円

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,069,701	1,069,701	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,732,052	1,732,052	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	166,067	166,067	—
資産計	2,967,822	2,967,822	—
(1) 支払手形及び買掛金	1,019,971	1,019,971	—
(2) 短期借入金	3,000,000	3,000,000	—
(3) 長期借入金(一年以内返済予定含む)	214,000	216,309	2,309
負債計	4,233,971	4,236,281	2,309

当中間連結会計期間(平成26年9月30日)

(単位:千円)

	中間連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,158,946	1,158,946	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,756,648	1,756,648	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	184,195	184,195	—
資産計	3,099,791	3,099,791	—
(1) 支払手形及び買掛金	1,176,519	1,176,519	—
(2) 短期借入金	3,000,000	3,000,000	—
(3) 長期借入金(一年以内返済予定含む)	160,000	161,375	1,375
負債計	4,336,519	4,337,895	1,375

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金（一年以内返済予定含む）

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	平成26年3月31日	平成26年9月30日
非上場株式	350	350
関係会社株式	30,642	30,642

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	4,045	1,910	2,135
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	4,045	1,910	2,135
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	162,022	211,516	△49,493
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	162,022	211,516	△49,493
合計	166,067	213,426	△47,358

当中間連結会計期間(平成26年9月30日)

(単位：千円)

区分	中間連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	4,070	1,910	2,160
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	4,070	1,910	2,160
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	180,125	211,516	△31,390
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	180,125	211,516	△31,390
合計	184,195	213,426	△29,230

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行っている対象となっているものであります。

当社グループは、草加工場及び川口工場に製品・サービス別の製造・販売組織を置き、各組織は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは生産・販売体制を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「合成樹脂事業」、「化成事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「合成樹脂事業」は、硬質塩化ビニル、セルロース系樹脂、アクリル、PETG、ポリスチレン、ポリカーボネート樹脂など各種樹脂を原料にフィルム・シート等の加工品を製造・販売しております。「化成事業」は、顔料高度分散体であるカラーチップや粘接着剤塗工製品等を製造・販売しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前中間連結会計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	合成樹脂事業	化成事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,460,735	970,694	2,431,429	—	2,431,429
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,460,735	970,694	2,431,429	—	2,431,429
セグメント利益 又は損失(△)	△49,691	137,274	87,583	△214,677	△127,094
セグメント資産	5,219,534	1,143,289	6,362,823	2,014,634	8,377,458
セグメント負債	760,161	365,335	1,125,497	4,261,934	5,387,431
その他の項目					
減価償却費	49,542	15,788	65,330	9,451	74,782
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	15,694	44,438	60,132	1,560	61,692

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△214,677千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△216,801千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額2,014,634千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない金融資産であります。

(3) セグメント負債の調整額4,261,934千円は、各報告セグメントに配分していない全社負債であります。全社負債は、主に報告セグメントに帰属しない借入金であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

当中間連結会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	合成樹脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,681,236	968,010	2,649,246	—	2,649,246
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,681,236	968,010	2,649,246	—	2,649,246
セグメント利益	57,176	192,206	249,383	△230,299	19,084
セグメント資産	5,353,087	1,141,228	6,494,316	1,943,818	8,438,134
セグメント負債	957,842	318,809	1,276,651	4,191,497	5,468,149
その他の項目					
減価償却費	50,188	14,705	64,893	11,125	76,019
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	51,431	234	51,666	156	51,822

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△230,299千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△232,017千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額1,943,818千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない金融資産であります。
- (3) セグメント負債の調整額4,191,497千円は、各報告セグメントに配分していない全社負債であります。全社負債は、主に報告セグメントに帰属しない借入金であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前中間連結会計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社グループは、本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社グループは、本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり中間純利益金額又は中間純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額	238.29円	241.64円
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額	2,928,928千円	2,969,985千円
普通株式に係る中間期末(期末)の純資産額	2,928,928千円	2,969,985千円
普通株式の発行済株式数	12,300,000株	12,300,000株
普通株式の自己株式数	8,342株	9,062株
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末(期末)の普通株式の数	12,291,658株	12,290,938株

項目	前中間連結会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当中間連結会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
(2) 1株当たり中間純利益金額又は 中間純損失金額(△)	△4.99円	1.87円
(算定上の基礎)		
中間純利益金額又は中間純損失金額(△)	△61,289千円	22,972千円
普通株主に帰属しない金額	—	—
普通株式に係る中間純利益金額又は 中間純損失金額(△)	△61,289千円	22,972千円
普通株式の期中平均株式数	12,292,117株	12,291,115株

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

① 【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当中間会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,035,544	1,119,946
受取手形	573,796	575,870
売掛金	1,158,256	1,180,128
商品及び製品	645,571	723,275
仕掛品	218,000	238,008
原材料及び貯蔵品	310,201	278,188
その他	※1 127,929	114,083
流動資産合計	4,069,300	4,229,501
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	238,822	238,877
機械及び装置（純額）	424,051	437,721
土地	2,759,654	2,759,654
その他（純額）	119,228	80,987
有形固定資産合計	3,541,758	3,517,241
無形固定資産		
ソフトウェア	1,778	1,420
電話加入権	2,485	2,485
無形固定資産合計	4,264	3,906
投資その他の資産		
投資有価証券	166,417	184,545
関係会社株式	40,642	40,642
繰延税金資産	423,352	423,352
その他	8,610	6,162
投資その他の資産合計	639,023	654,702
固定資産合計	4,185,045	4,175,849
資産合計	8,254,346	8,405,351

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当中間会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	166,741	203,110
買掛金	853,230	973,409
短期借入金	3,000,000	3,000,000
1年内返済予定の長期借入金	108,000	108,000
リース債務	2,166	2,161
未払金	132,820	114,961
未払法人税等	7,693	6,230
賞与引当金	79,639	76,550
その他	89,607	※1 91,276
流動負債合計	4,439,898	4,575,700
固定負債		
長期借入金	106,000	52,000
リース債務	3,301	2,220
退職給付引当金	691,826	716,668
役員退職慰労引当金	23,375	27,493
その他	70,695	72,557
固定負債合計	895,197	870,940
負債合計	5,335,096	5,446,641
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,222,600	1,222,600
資本剰余金		
資本準備金	958,677	958,677
資本剰余金合計	958,677	958,677
利益剰余金		
利益準備金	33,100	33,100
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	753,064	774,440
利益剰余金合計	786,164	807,540
自己株式	△833	△876
株主資本合計	2,966,608	2,987,940
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△47,358	△29,230
評価・換算差額等合計	△47,358	△29,230
純資産合計	2,919,249	2,958,710
負債純資産合計	8,254,346	8,405,351

② 【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)
売上高	2,426,314	2,645,654
売上原価	2,164,307	2,252,777
売上総利益	262,006	392,877
販売費及び一般管理費	384,876	378,116
営業利益又は営業損失(△)	△122,869	14,760
営業外収益	※1 70,731	※1 41,479
営業外費用	※2 23,785	※2 19,346
経常利益又は経常損失(△)	△75,923	36,894
特別損失	※3 9,363	※3 677
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△85,287	36,216
法人税、住民税及び事業税	※4 △27,969	※4 14,840
法人税等合計	△27,969	14,840
中間純利益又は中間純損失(△)	△57,318	21,376

③ 【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間(自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,222,600	958,677	958,677	33,100	882,770	915,870
当中間期変動額						
剰余金の配当					△30,731	△30,731
中間純損失(△)					△57,318	△57,318
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)						
当中間期変動額合計	—	—	—	—	△88,049	△88,049
当中間期末残高	1,222,600	958,677	958,677	33,100	794,721	827,821

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△792	3,096,355	△42,010	△42,010	3,054,344
当中間期変動額					
剰余金の配当		△30,731			△30,731
中間純損失(△)		△57,318			△57,318
自己株式の取得	△41	△41			△41
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)			16,296	16,296	16,296
当中間期変動額合計	△41	△88,090	16,296	16,296	△71,794
当中間期末残高	△833	3,008,265	△25,714	△25,714	2,982,550

当中間会計期間(自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,222,600	958,677	958,677	33,100	753,064	786,164
当中間期変動額						
剰余金の配当					—	—
中間純利益					21,376	21,376
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)						
当中間期変動額合計	—	—	—	—	21,376	21,376
当中間期末残高	1,222,600	958,677	958,677	33,100	774,440	807,540

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△833	2,966,608	△47,358	△47,358	2,919,249
当中間期変動額					
剰余金の配当		—			—
中間純利益		21,376			21,376
自己株式の取得	△43	△43			△43
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)			18,127	18,127	18,127
当中間期変動額合計	△43	21,332	18,127	18,127	39,460
当中間期末残高	△876	2,987,940	△29,230	△29,230	2,958,710

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式

移動平均法による原価法によっております。

その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

(2) たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

a 商品及び製品

月別総平均法

b 仕掛品

月別総平均法

c 原材料及び貯蔵品

月別総平均法

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

本社及び川口工場については定率法を、草加工場については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～41年

機械及び装置 3～10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

なお、当中間会計期間末においては、貸倒実績及び貸倒懸念債権等の回収不能見込額がないため、貸倒引当金は計上しておりません。

(2) 賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

4 その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理について

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(中間貸借対照表関係)

※1 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、流動資産の「その他」または流動負債の「その他」に含めて表示しております。

(中間損益計算書関係)

※1 営業外収益の主要項目は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
受取利息	195千円	44千円
受取配当金	2,621千円	2,621千円
試作品売却益	10,239千円	10,122千円
為替差益	11,193千円	15,175千円
受取補償金	36,800千円	—

※2 営業外費用の主要項目は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
支払利息	21,548千円	18,165千円

※3 特別損失の主要項目は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
固定資産除却損	9,363千円	677千円

※4 中間会計期間における税金費用については、簡便法による税効果会計を適用しているため、法人税等調整額は「法人税、住民税及び事業税」に含めて表示しております。

5 減価償却実施額は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
有形固定資産	74,496千円	75,661千円
無形固定資産	286千円	357千円

(有価証券関係)

子会社株式は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。
なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の中間貸借対照表計上額(貸借対照表計上額)は以下のとおりです。

(単位：千円)

項目	平成26年3月31日	平成26年9月30日
子会社株式	40,642	40,642

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第113期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)平成26年6月30日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

平成26年12月19日

太平化学製品株式会社
取締役会 御中

東邦監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 齋 藤 義 文 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 矢 崎 英 城 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太平化学製品株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書、中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について中間監査を行った。

中間連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間連結財務諸表には全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間連結財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、太平化学製品株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

-
- ※ 1 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成26年12月19日

太平化学製品株式会社
取締役会 御中

東邦監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 齋藤 義文 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 矢崎 英城 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太平化学製品株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第114期事業年度の中間会計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、太平化学製品株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会

社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。